

令和 6 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立三先幼稚園

令和 7 年 3 月

大阪市立三先幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

三先幼稚園教育目標 ○主体的に活動する子どもを育てる

- ・いきいきとした、明るい子ども
- ・何事にも取り組もうとする、意欲のある子ども
- ・友達と協調できる子ども
- ・きまりや約束の守れる子ども
- ・しっかり考えて、最後まで頑張れる子ども

を基に、環境を通して豊かな体験ができるような保育を進めていく。遊び場の減少や人とのかわりが希薄になり、自分の思いをのびのびと表現することに戸惑いを感じる幼児の様子が伺える。幼児一人一人が夢中になって遊ぶ中で、幼児期にふさわしい体験を積み重ね、自分らしさを発揮することができるように、特色ある園運営を図っていく。

また、区に1つの公立幼稚園であることから、地域の幼児教育センター的な役割を果たしていく必要がある。本園の保護者だけでなく地域の方や未就園児の保護者へ、本園の教育内容を広く発信していくように努めていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和4年度～7年度の年度末保護者アンケート「安全や災害時などに対する知識を身につけ、安全な生活への意識を高めている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

- ・幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか。
- ・お子さまは「自分が好き」「友達が好き」という気持ちを持ち、自分のことも友達のことも大切にすることが育っていますか。
- ・幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和4年度～7年度の年度末保護者アンケート「お子さまは遊びの中で学んでいる」の項目について、肯定的に回答する割合を95%以上にする

○令和4年度～7年度の年度末保護者アンケート「年度当初より、身振りや言葉で友達に思いを伝えようとするようになってきた」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

○令和4年度～7年度の年度末保護者アンケート「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

○令和4年度～7年度の年度末保護者アンケート「幼稚園は、規則正しい生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

○令和4年度～7年度の年度末教職員アンケート「研修を通して、自身の資質向上につなげることができたか」の項目について、肯定的に回答する割合を100%にする。

○令和4年度～7年度の年度末保護者アンケート「幼稚園は、活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度末保護者アンケートの「安全や災害時などに対する知識を身につけ、安全な生活への意識を高めている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする
- 今年度末保護者アンケートの「幼稚園の子どもたちは集団の中で楽しんで過ごしている」という項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする
- 今年度末保護者アンケートの「幼稚園は、いろいろな国や地域の文化や、日本の伝統などにふれる機会がある」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度末保護者アンケートの「お子さまは遊びの中で学んでいる」の項目について、肯定的に回答する割合を95%以上にする
- 今年度末保護者アンケートの「年度当初より、身振りや言葉で友達に思いを伝えようとするようになってきた」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする
- 今年度末保護者アンケートの「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする
- 今年度末保護者アンケート「幼稚園は、規則正しい生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度末教職員アンケートの「研修を通して、自身の資質向上につなげることができたか」の項目について、肯定的に回答する割合を100%にする
- 今年度末保護者アンケートの「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする

3 本年度の自己評価結果の総括

3つの視点ともに目標を達成することができたと捉えている。

○【安全・安心な教育の推進】

- ・子どもの実態に合わせて避難訓練を計画的に実施したとともに、教職員も避難に対しての意識が高まっていくように毎月課題について話し合い、内容を検討して行うことができた。
- ・わらべうたを保育に取り入れ、参観日に保護者と楽しんだり、地域の方たちと楽しんだりして遊んだ。3学期の生活発表会ではわらべうたをメドレーにして保護者に披露し、保護者にも日本の伝統文化について触れてもらう機会にすることができた。

○【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・昨年度の次年度への改善点を活かし、2学期からは毎月担任がドキュメンテーションを作成し、保育について保護者に伝える保育室帰りの日を設けた。保護者からも「保育の流れや子どもたちの様子がわかりやすい」という意見をいただくことができた。
- ・園の資源を活用し、保育に活用できるよう教職員で研修し、季節や子どもの実態に合わせて環境の再構成を行ったことで、子どもたちの自然物への気付き、興味や関心の深まりにつながった。
- ・「野菜食べたよカード」や保健指導に即した健康習慣が身に付けられるようにつくった「げんきカード」、長期休暇中の「歯磨き・朝ごはんカレンダー」「おいしかったよカード」などにより、園での規則正しい生活習慣についての指導を保護者にも意識して実践してもらうことができた。

○【学びを支える教育環境の充実】

- ・地域諸団体との連絡・連携を行い、地域に深くつながる公立幼稚園として交流を行った。子どもも保護者も教職員も地域を大切に、大切にされている実感をもてる交流の場を、今後も設けていく。

大阪市立三先幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○今年度末保護者アンケートの「安全や災害時などに対する知識を身につけ、安全な生活への意識を高めている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする ○今年度末保護者アンケートの「幼稚園の子どもたちは集団の中で楽しんで過ごしている」という項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする ○今年度末保護者アンケートの「幼稚園は、いろいろな国や地域の文化や、日本の伝統などにふれる機会がある」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 自分の命を大切にし、安全な行動や考える力を身に付ける為の指導に取り組む 指標 ・避難訓練年間計画を作成し、月に1回避難訓練を行う。 ・防災教育について、全教職員で月に1回以上話し合う機会をつくり、課題について共通理解し、PDCAサイクルを生かした訓練を実施する。	A
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 一人一人を大切にしたい保育ができるように、幼児理解に努め、幼児の実態に応じた指導方法を工夫する 指標 ・毎月、園内委員会を開き、幼児理解に努める ・専門機関、アドバイザーの助言を受け幼児の実態にあった保育に努める	A
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 保育内容を工夫し、多文化に親しむ活動を実施する 指標 ・年3回、講師による「英語で遊ぼう」を実施する ・日本の伝承あそびを年5回程度取り入れる	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者アンケートの「安全や災害時などに対する知識を身につけ、安全な生活への意識を高めている」の項目について、肯定的に回答する割合は100%であった。(あてはまる 91% やあてはまる 9%) ・4月、火災の避難訓練を実施。3歳児は園庭で、4・5歳児が避難する様子を見学。非常ベルを鳴らす前にアナウンスで知らせたことで、昨年度より混乱を起こさずに訓練に参加できた。非常時防災袋の持ち出しに課題があり、教職員のいる場所に応じて持ち出す袋を再確認した。 ・5月、火災の避難訓練を実施。前回の訓練を覚えており、混乱せずに避難できた。足を負傷している職員おり、園児はもちろん、教職員も人数確認を行う必要性を確認。また、保護者の引取訓練も実施。引取カードで個人を確認しながら行った。新入園児の保護者が引取訓練の意味

を理解できておらず、事前に内容を知らせておく必要性を実感した。

- ・ 6 月、地震と地震後の火災の避難訓練を実施。事前に防災頭巾の着脱を試したことで、自分がかぶることができる幼児が増えた。また、地震と火災の避難の違いについて、4・5 歳児の中でしっかりと理解している様子が伺えた。立ち合いの消防関係者からも、認められた。
- ・ 7 月、港警察より 3 名が交通安全指導を実施。信号の見方、意味、横断歩道の渡り方などについて話を聞いた後、実際に渡る経験をしたことで、正しい方法を知る機会となった。保護者も参加しており、啓発につながった。止まれの標識も教わったことで、道路の安全について、意識するきっかけとなり、夏休みの安全指導につながった。
- ・ 9 月、大阪 880 万人訓練を預かり保育で実施。園長が出張で不在の際の教職員の体制や動きについて確認し、いろいろな想定で訓練する大切さを感じた。また、不審者侵入訓練・引き取り訓練を実施。不審者役をつくることで、実際に不審者から見て穴となるところが分かった。幼児に知らせる合言葉の共有を日頃から図っておく必要性を強く感じた。
- ・ 10 月、交通安全指導を実施。園外保育に出かける前に、園内をペアで歩く体験を繰り返すことで、実際の場面で安全に歩くことができた。
- ・ 11 月、避難訓練（火災）を計画外で実施。午後に実施とだけ伝えて、時間を知らせずにベルを鳴らして訓練を実施。地震か火災かで混乱したり、避難後に 2 列になっていなかったり、課題を自覚できるように話し合い、次につなげた。
- ・ 12 月、不審者侵入訓練を実施。園長が犯人役になり、園外から侵入を試みる。園庭で遊んでいた園児は、目が合っても動かず。職員が発見し、主事を呼ぶまで時間を要することが課題。園児には、知らない人を見たらすぐに近くの大人に知らせること、園児の安全が確保されたら、発見職員もすぐに避難することを再確認した。
- ・ 1 月、避難訓練（地震津波）・二次避難・引き取り訓練を実施。防災頭巾をかぶることで声が届きにくくなる課題、学年毎に避難する教職員の付き添い分担など、共通理解を図った。保護者には、二次避難場所に引き取りに来る体験ができ、啓発につながった。
- ・ 2 月、避難訓練（火災）を日程を変え、知らせずに実施。大きな混乱はなかったが、戸外ではすぐに行動できない課題があり、どこで起こるか分からない想定で実施する必要性が見えた。
- ・ 4 月、園庭の遊具や遊び方について、安全指導を実施。年齢に応じて高さを変えたり、危険な遊び方を知らせたりすることで、大きなケガにつながらずに安全に遊ぶことができていた。また、園庭開放が始まる前に、安全指導の手紙を保護者に配布し、共通理解を図った。
- ・ 6 月、プール開きにて、教員が演技をし、安全なプール遊びについて指導した。実際の動きを見て、問いかけ、園児に答えてもらうことで、より理解につながり、プールの事故はなかった。
- ・ 2 月、避難訓練の実施の様子をドキュメンテーションで掲示し、保護者に伝えたことで、防災教育・安全教育の啓発につながった。

取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

保護者アンケート「幼稚園の子どもたちは集団の中で楽しんで過ごしている」という項目について肯定的に回答する割合は 100%（あてはまる 96% ややあてはまる 4%）であった。

- ・ 視覚カードを活用し毎日保育のスケジュールを伝え、見通しを持って活動できるようにしたり遊具の表示などを掲示したことで片付けや生活しやすい環境になった。
- ・ 毎月専門機関の訪問を活用し幼児理解や関わり方を話し合い共有した。また施設見学をし、専門的な知識や子どもの姿を多角的に捉えることにもつながっている。
- ・ 一人一人幼児の援助を共通理解し教職員、介助サポーターと連携し同じ支援で関わることで子どもが混乱せずに、安心して生活できるようになってきた。

- ・年2回（8月と1月）の巡回指導を活用し、専門的な立場から助言や指導を受け、全職員で共有したことで、より個別な支援につなげることができた。
- ・個々が安心できるスペース作りをしたことで落ち着いて過ごせる場ができた。
- ・区の相談員、小学校の引継ぎなど個々の必要に応じて連携を図り情報共有を行った。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

保護者アンケート「幼稚園は、いろいろな国や地域の文化や、日本の伝統などにふれる機会がある」の項目について、肯定的に回答する割合は98%（あてはまる 72% ややあてはまる 26%）であった。

- ・月の幼稚園だよりに日本の歴史あるわらべうたを掲載し、クラスの活動に取り入れた。5月の参観では「ひらいたひらいた」で遊び、保護者も交えて伝承遊びに親しんだ。未就園児活動では5歳児が「いっぽんばし」のふれあい遊びをした。2月の生活発表会では、一年間で親しんできたわらべうたをメドレーにして発表したため、日本の文化に親しんで遊ぶ機会となった。
- ・こどもの日の集いや七夕の集い、餅つき、鏡開きなど、日本の伝統ある行事にふれる機会を重ねる中で、親しみの気持ちをもって参加していた。
- ・園庭や地域の中学校のグラウンドで凧あげをしたり、こまやかるたなどで遊んだりした。10月に園外保育で四天王寺を訪れ、日本の伝統的な遊びや歴史ある建物に親しむ機会となった。
- ・年2回5歳児が地域の老人施設を訪問し、わらべうたを歌ったり、「かたたたき」のふれあい遊びをしたりして触れ合ったことで地域の方と一緒に日本の伝統遊びを楽しむ機会になった。
3学期は4歳児が訪問予定だったが、雨天中止となり、絵手紙を作成したことで来年度への期待につながった。
- ・年3回「英語で遊ぼう」を実施したことで、英語の絵本や歌などに触れて海外の言葉や文化に親しむ機会になった。回を重ねることで、より英語が楽しくなってきた様子が見られた。
- ・2学期、5歳児クラスに中国にルーツのある子どもが入園してきたことによって多文化や他の国の言語に興味をもつようになった。
- ・2学期、全クラスで大阪万博に掲示する絵を描いた。万博についての興味や関心をもつことができる機会になった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・安全に関する意識は、常日頃からの積み重ねが大切であり、PDCAサイクルを活用し、課題に基づき、次の指導に生かすことを今後も継続していく。
- ・幼児はもちろん、教職員の連携が必要不可欠であることを認識し、日頃からの連携を確認しておく。
- ・教職員にも知らせずに訓練を実施することで、実際の行動が見えてくるため、実施していく。

取組内容②

- ・専門機関を活用し一人一人の子どもへの関わり方や援助について、教職員、介助サポーターとも共有し、より多面的に関わることができるようにする。
- ・園内委員会で個々の関わりについて情報共有していく。
- ・週案の打ち合わせや話し合いなど担任全員で行い、全教職員で共有する。

取組内容③

- ・より多くの伝承遊びに触れることができるようにクラスや園での活動をしていき、保護者にもその様子を伝えていく。

大阪市立三先幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○今年度末保護者アンケートの「お子さまは遊びの中で学んでいる」の項目について、肯定的に回答する割合を95%以上にする。 ○今年度末保護者アンケートの「年度当初より、身振りや言葉で友達に思いを伝えようとするようになってきた」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする ○今年度末保護者アンケートの「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする ○今年度末保護者アンケート「幼稚園は、規則正しい生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムを参考にしながら、三先幼稚園の教育課程を見直し、特色ある保育を実施する	B
指標 ・毎月、教師が子どもの学びについて振り返り、三先幼稚園の教育課程に反映する ・学期に1回程度、取組内容について、ドキュメンテーションを作成し、発信する ・就学前教育カリキュラムに関する研修に、全員1回以上参加する	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 子どもが自然と関わる楽しさを味わえるような環境構成や保育内容の工夫を図る	B
指標 ・学期に1回、園内や園庭の環境について見直し、再構成を行う ・学期に1回、自然と関わる楽しさを味わえるような保育を展開する ・年4回、園内研究会及び討議会を行う	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 子どもが意欲的に体を動かして遊べるような保育内容を工夫する	B
指標 ・学期に1回以上、好ましい姿勢について指導を行い、身につけられるような習慣づくりを実施する ・毎月1回以上、全学年で集会をし、体を動かす遊びを実施する	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 規則正しい生活を身につけ、自分の体に興味や関心をもてるようにする	B
指標 ・学期に1回以上、生活習慣に関する保健指導を行う ・長期休業中に、規則正しい生活習慣に関するカレンダーを実施する ・保護者啓発として、毎月の保健指導の内容をほけんだよりや掲示などに工夫をして知らせる	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

保護者アンケート「お子さまは遊びの中で学んでいる」の項目について、肯定的に回答する割合は98%（あてはまる 87% ややあてはまる 11%）であった。

- ・担任が日案を立て、振り返りを行い、互いの保育を共有する話し合いを月1回以上行った。子どもの実態や季節に合わせた保育を進め、教育課程へと反映させた。学期ごとに教育課程の振り返りを行い、次年度へとつなげていった。
- ・終業式毎にパワーポイントを使い、園長が園全体の保育の様子やねらい、育ちを保護者に伝えた。今年度新たに、2学期から毎月保育室帰りを行い、担任から保育についてドキュメンテーションとともに保護者に伝えた。「保育の流れや子どもたちの様子が分かりやすい」という保護者の意見につながっている。
- ・就学前教育カリキュラムに関する研修への参加について概ね計画通り参加した。就学前カリキュラム研究発表に参加予定であったが、園行事と重なり、参加できなかった教員もいた。保育案に就学前教育カリキュラムにおける「知・徳・体」を記載したことで、就学前教育カリキュラムを意識して保育を進めていくことができ、「知・徳・体」バランスよく保育を行っていくことができた。

取組内容②

保護者アンケート「年度当初より、身振りや言葉で友達に思いを伝えようとするようになってきた」の項目について、肯定的に回答する割合は98%（あてはまる 87% ややあてはまる 11%）であった。

- ・園にある資源を保育に生かせるように、園内にどのような植物や活用できる自然があるのかを教職員で研修し、各教員で園内マップを作成して見比べたことで、園内の植物に気付いたり名前を知ったり、学ぶ機会となった。そこで得た知識を保育に活かし、子どもたちの自然物への気付き、興味や関心につながっていくような保育の展開に繋いでいくことができた。
- ・保育室の環境についても季節ごとに再構成し、季節に合わせた木の実や自然物を掲示したり遊びに取り入れたいくなるように置いたりしたことで、子どもたちは自然物を身近に感じ、主体的に遊びに取り入れていくようになった。また、自然現象などについての興味や関心も広がっていくように、絵本を用意したり、気付きを共有できるように教師自身も自然現象への意識を高めていったりしたことで、天気の変り変わりや気候の変動についても心を動かして考えたり不思議に思ったりする子どもの姿が見られるようになった。
- ・季節ごとに子どもたちが自然に触れ、遊べるように必要な草花や野菜などについて吟味し、園庭や畑の環境を整えたことで、自ら進んで草花や野菜の世話をしたり、様子を毎日見守るなど、興味をもって自然に関わって遊ぶようになった。

春～夏に栽培した野菜	イチゴ、ソラマメ、タマネギ、ビワ、カキ、エダマメ、ナス、プチトマト、オクラ、ピーマン、トマト、ゴーヤ、サツマイモ、スイカ、メロン
秋～冬に栽培した野菜	サツマイモ、カキ、ダイコン、ブロッコリー、カリフラワー、ニンジン、ハクサイ、タマネギ、ラディッシュ、キャベツ、ソラマメ、スナックエンドウ、ミズナ

- ・野菜の栽培を通して野菜の生長に興味をもって栽培を行った。生長した野菜を食べるときに「野菜食べたよカード」に感想を記入できるようにしたところ、野菜の色や形、味について興味をもつことへとつながり、弁当に入れて食べる姿も見られた。
- ・10月には地域の公園などを教職員で見て回り、保育に活用できる自然物について学ぶ機会をつくり、地域の自然への知識を深めることができた。そこから3歳児は地域の公園へドン

グリ拾いに出かけ、拾ったドングリで作品展の制作物をつくった。

- ・5月、6月、9月、11月、1月に実践記録についての検討会を行い、教職員で学びを深めた。6月、9月、12月に4歳児、5歳児それぞれのクラスで園内保育研究会を実施し、保育をする教師も保育を見た教師もそれぞれの視点で活発に意見を交わし、保育へと活かすことができた。10月には、指導要請として、園内研究保育を園全体で実施した。移り変わっていく自然に気付いて遊びに取り入れる環境構成や教師の教育的意図をもった働きかけについて、討議を行い、元園長先生から指導助言を受けた。より具体的な保育を実践することで幼児の育ちにつながることを全教職員で共有し、以降の保育に活かしている。

取組内容③

保護者アンケートの「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」の項目について、肯定的に回答する割合は100%（あてはまる 89% ややあてはまる 11%）であった。

- ・毎月の誕生会で季節感を取り入れたふれあい遊びを全学年で行ってきたことで、体を動かす楽しさを感じられるようになってきた。
- ・季節や子どもの実態に合わせた体操を選び、教師や友達と一緒に体を動かす機会を取り入れたことで、集会活動で様々な友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようになってきた。
- ・園外保育に向けて全学年でペアを組み、園内を散歩したりふれあい遊びをしたりして、体を動かす遊びを取り入れてきたことで、他のクラスの友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむことができるようになってきた。
- ・10月、運動会に向けて体を動かす遊びを楽しんだ。運動会後は、5歳児の姿に憧れて3・4歳児もリレーに参加したり、竹馬やフラフープなどにも挑戦したりする中で、教えてもらう姿もあり、異年齢の関わりに繋がった。
- ・1月から全学年で毎朝体操・マラソンを実施した。体を温めることで怪我の防止につながることも理解し、体を動かす楽しさも味わいながら寒くても元気に遊ぶことに繋がった。
- ・全学年、ボール遊びや大縄跳びなどで遊ぶ中で、遊び方を試したりルールを考えたりして友達と一緒に遊ぶことを楽しむことができるようになってきた。

4月	よろしくね あひるのダンス	10月	いっとうしょうたいそう わらうんだWAっ! なべなべそこぬけ
5月	あくしゅでこんにちは たけのこたいそう	11月	むしむしじゃんけん
6月	ちびまるこ音頭 もったいないばあさん音頭 オーシャンゼリゼ ペンギンのプール体操	12月	サンタッタ ともだちできちゃった
		1月	おんせんはいろっか おでんぐつつぐつ体操
7月	かまきりマッサージ	2月	こすれこすれ
9月	昆虫太極拳	3月	

- ・雨天時や暑さに応じて、リズム室にて全学年でサーキット遊びをして体を動かした。
- ・1学期には、姿勢に関する指導を4・5歳児は4月に、3歳児は7月に行った。2学期には運動会前に全学年に正しい立ち方を知らせた。3学期は、保育修了式前の保健指導時に座り方について全学年に指導予定である。よい姿勢が体にとってだけでなく、見栄えにもよいことを伝え続けていることで、友達同士で「かっこいい姿勢にしよう」と声を掛け合う姿がみられるようになってきた。
- ・毎日の昼食と歯みがき時に、「足の裏?」「ぴったん」「膝と膝?」「こつつん」「背中は?」「ぴーん」「手は?」「お膝」を合言葉に姿勢を正すよう指導を行っている。3・4歳児にお

いては、歯みがき指導の際学年の実態に応じて当番が声掛けをしたり、よい姿勢の友達見つけをしたりしている。

- ・4・5歳児には、前年度によい姿勢の必要性について保健指導を行ったため、「なぜよい指導が必要な?」の問いに対して、「お腹が痛くなるから」「背骨が曲がっちゃうから」など理解をした返答ができるようになった。運動会を経験し、体幹も強くなり姿勢維持ができるよう努力する姿が見られた。

取組内容④

保護者アンケート「幼稚園は、規則正しい生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合は100%（あてはまる 100%）であった。

- ・生活習慣の自立と体への興味や関心を高めるため年齢に応じたねらいで保健指導を実施した

4月	保健室の利用方法 プライベートパーツについて	10月	生命の安全教育
		11月	インフルエンザについて
5月	手洗い指導	12月	食育
6月	歯と口の健康について	1月	冬の生活について
7月	熱中症について 鼻について	2月	こころの健康について
9月	早寝について	3月	体の成長について（予定）

- ・6月より「げんきカード」を一人1枚配布し、健康カレンダーにより健康習慣を身につけられるよう工夫している。9月・1月には「はやねういーく」を設定し、毎日の早寝を家庭と協力し実施した。げんきカードを使用したことで、指導内容の定着がみられた。12月の食育指導後は、3色栄養探しを行ったことで「げんきカードがきっかけで、野菜を食べるようになりました」という保護者の声が聞こえている。
- ・夏季休業中のカレンダーを1学期中に取り組んだ「歯みがき」と「朝ごはん」カレンダーにし、より一層の生活習慣を身につけられるようにした。冬季休業中には、「おいしかったよカード」を配布し、食材やメニューに興味をもたせ、食への関心を高め、作ってくれている人への感謝の気持ちをもって食事を行えるようにした。
- ・毎月の保健指導の内容を保健室前掲示したり、ほけんだよりに掲載したりしている。また今年度より、幼稚園ホームページにて指導の様子をタイムリーに載せることで、より保健指導の内容が保護者に伝わりやすいよう啓発した。

次年度への改善点

取組内容①

- ・次年度も、就学前教育カリキュラムを活用し、教育課程に反映していく。

取組内容②

- ・園内の活用できる自然環境について再検討し、保育内容の充実を進め、幼児にどのような育ちがあるのかについて環境構成を考えていく。

取組内容③

- ・誕生会だけではなく全学年で関わる時間をより多く設け、集団の中で体を動かす楽しさを感じながら異年齢の自然な関わりに繋げたい。
- ・体操だけではなく、サーキット遊びや表現遊びなどができる機会を設けていく。
- ・合言葉を言うだけで、行動がついていけない子どもがいるため、正しい姿勢の大切さを再度理解し、実践できるよう担任と連携し声掛けを園全体で行っていく。

取組内容④

- ・生活習慣の大切さを理解している幼児が多いため、理解が行動に移せるように支援を継続する。
- ・保健活動が保護者にも伝わるよう啓発をいろいろな場で行うようにする。

大阪市立三先幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○今年度末教職員アンケートの「研修を通して、自身の資質向上につなげることができたか」の項目について、肯定的に回答する割合を100%にする ○今年度末保護者アンケートの「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上を図り、しなやかな組織づくりにつなげる 指標 ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修に、各教員3回以上参加する ・毎月2回、「ゆとりの日」を確実に実施する	B
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域や保護者に活動内容や教育方針を分かりやすく伝える 指標 ・週3回程度、HPに活動の様子を掲載する ・学期に2回程度、担任が、各クラスの保育内容をHPに掲載する ・地域・諸団体と連携し学期ごとに、地域行事や研修会についての情報交換を行う	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容について】 取組内容① 今年度末教職員アンケートの「研修を通して、自身の資質向上につなげることができたか」の項目について、肯定的に回答する割合が100%（あてはまる 100%）であった。 ・各教員が自身のキャリアステージに対応した研修に、各教員が3回以上参加し、学びを深めていくことができた。それぞれ、保育や業務に反映していくことができた。「職務の専門性を引き上げることができた」や「子どもとの日々の関わり方や安心して過ごすことができる環境づくりについて学び、保育に活かしていくことができた」、「同じ立場の人たちと話し合うことで、多面的に考える機会となり、自園に取り入れていくことができた」という意見があった。 ・毎月「ゆとりの日」を行事予定表に月に4回記載しているが、実施できなかった日もあった。組織で協力して進めているものの、大きく職員体制が変わり、不在の職員の業務や保育を補い合うため、やむを得ず実施できない日もあった。 取組内容② 保護者アンケート「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的に回答する割合は100%（あてはまる 68% ややあてはまる 32%）であった。	

- ・各遊びや行事について「幼稚園日記」ホームページを更新し、活動内容を伝えている。

月	内容	アクセス数
4月	始業式	810回
5月	保健指導・こどもの日の集い・交流活動・泥遊び 他	640回
6月	交流活動・保健指導・夏祭り・プール開き・遊びの様子 他	673回
7月	絵の具遊び・遊びの様子・一学期の振り返り 他	630回
8月	始業式・園庭の様子・夏祭り 他	478回
9月	交流活動・英語で遊ぼう・遊びの様子・歯科保健促進指導 他	630回
10月	園外保育・避難訓練・遊びの様子・運動会・絵の具遊び 他	725回
11月	三先憩いの家・港南中運動会・園外保育・PTA バザー 他	458回
12月	もちつき・お楽しみ会・交流活動・遊びの様子 他	437回
1月	始業式・保健指導・うたごえコンサート・冬の遊び 他	391回
2月	節分遊び・生活発表会・マラソンの様子 他	185回
合計		6057回
昨年		8432回

- ・担任が各クラスの様子を掲載することがなかなかできなかったもので、改善していきたい。
- ・地域諸団体と連絡・連携を行い地域の情報を収集している。

- 三先小学校との交流では、1学期に4・5歳児が三先小学校の三先山へ遊びに行き、教頭先生にあいさつをしたり、小学生と顔を合わせたりしたことで小学校に親しみを持つことができた。また、進学に向けて小学校の先生と電話や来園してもらい情報交換することができた。3学期には、5歳児が就学に向けて1年生と交流を予定している。
- 港南中学校との交流では、1学期に年間計画の打ち合わせをした。2学期には5歳児が港南中学校の体育大会に参加したり、2年生が職場体験で幼稚園に来てくれたり、3年生が家庭科の授業で作ったおもちゃを幼稚園に持って遊びに来てくれたりした。中学校のグラウンドを借りて凧あげをした。中学生と一緒に過ごしたり、手作りおもちゃで遊んだり、凧あげを手伝ってくれたりしたことで好意をもって接することができた。3学期には、地震の避難訓練で中学校のグラウンドに避難し、引き取り訓練を行い、その後のふれあいコンサートでは中学校の吹奏楽部の演奏を聴いたり、5歳児が歌を歌ったりして交流することができた。
- 三先憩いの家訪問では、1学期と2学期に5歳児と一緒に歌を歌ったり、ふれあい遊びを楽しんだりしたことで、地域の方々と交流した。3学期には、4歳児が行く予定にしていたが雨の天中止となり、憩いの家の方々に手紙を書いて届け、進級してからの楽しみにつなげた。
- ふれあいランドでは、月1～2回実施し、地域の未就園児に施設を開放し、在園児と関わって遊ぶ機会をもったことで小さいお友達に優しくしたり、気遣う姿が見られた。また、3学期には、生活発表会での劇遊びや歌、合奏を見てもらい、自信にもつながった。
- その他にも、夏休みには、三先天満宮から神輿や獅子舞などが園に立ち寄ってくれ、預かり保育の子どもたちに見せてくれたことで地域の方や行事を知ることができた。
- 2学期には、港区人権教育実践交流会に参加し、地域の施設等での子どもたちの実態や課題について共有することができたり、3学期には港区子育て支援専門部会会議に参加し、地域の子どもたちや子どもたちの取り巻く環境について情報交換をしたりすることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・計画通りに研修に参加していく。また、「ゆとりの日」を実施していけるようにする。

取組内容②

- ・ホームページの掲載は、全教職員が発信できるようやり方を工夫し、多くの人に幼稚園を知ってもらえるよう活動の様子を頻繁に掲載する。地域との交流を通して様々な方々が三先幼稚園の子どもたちのことを大切に思い接して下さっていることを、子どもたちや保護者も感じることができたので、今後も地域と連携を図って、交流の場を設けるようにする。